

市立

1992年(平成4年)6月1日発行

# 市川自然博物館

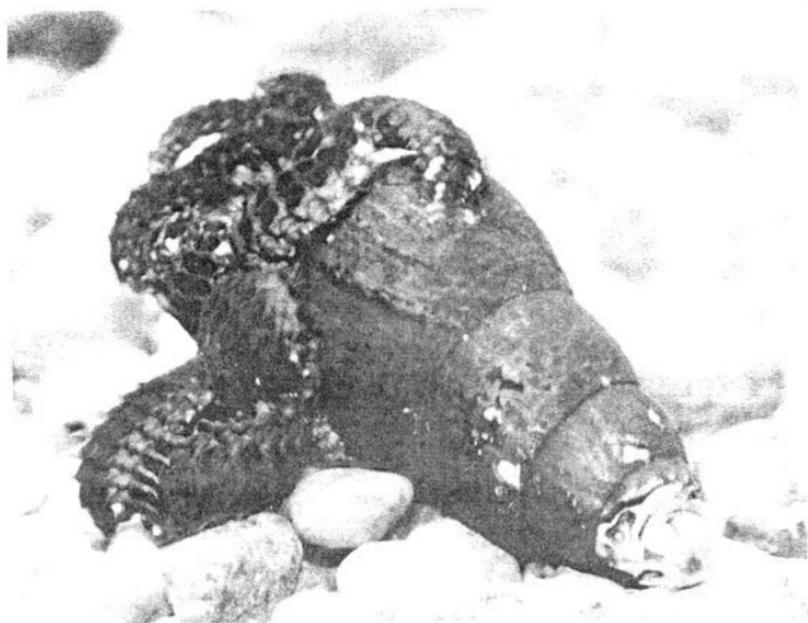
## 6・7月号

(通巻第19号)

たより

今月号の特集

ヘイケボタルの幼虫時代



△カワニナに食いつくヘイケボタルの幼虫

# 特集 ハイケボタルの

ボタルは、市川市内でも大町自然観察園などごく限られた地域で、ハイケボタルという種類を見ることができます。成虫の美しく光りながら飛ぶ姿と違い、幼虫は肉食で悍猛な生活をしています。7月下旬頃から羽化しはじめ、私たちの目を楽しませてくれるハイケボタルの幼虫時代を中心にお話をしましょう。

## \*幼虫の生活

7月下旬～8月上旬に水ぎわのコケなどに産みつけられた卵は、1カ月ほどで孵化します。ハイケボタルの幼虫は、汚水の流れ込まない水路や田んぼなどに住んでいます。ふだんは泥の中などに隠れているため、その姿はめったに見ることができません。幼虫は、脱皮するたびに大きくなっていきます。孵化したばかりの時は、長さ約2mmで体も細く、まるで糸屑のように見えます。冬を迎えるころには1cm近くにもなります。寒い冬を静かに過ごし、水温の上昇とともに再び活動をはじめます。終齢に達した幼虫は長さ約2cmになり、6月中旬頃、土の岸边にはい上がると、土の中に室をつくってそこで蛹になります。ハイケボタルは、卵・幼虫・蛹・成虫といずれの段階でも発光することが知られています。終齢幼虫が上陸する際の発光を、野外で観察す

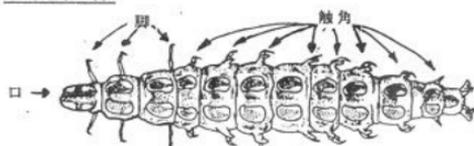
ることもできます。蛹は、約50日後に羽化します。

## \*幼虫の食性

幼虫は、カワニナなどの水にすむ巻貝を食べます。幼虫はカワニナの上に乗って、あるいは横からいきなりカワニナの肉に食いつきます。カワニナはふたを閉めて、幼虫を防ごうとしたりします。うまく食いついた幼虫はやがて口から消化液を出して、カワニナの肉をゆっくりと溶かして食べます。水槽で飼育した際には、1匹の弱ったカワニナに、10匹以上の幼虫が食いついている姿を観察できました(表紙の写真)。

成虫になると、幼虫の時代とは違って変わって、水分を少し取るだけで、何も食べず、交尾し卵を産み、そして死んでしまいます。

## \*幼虫の体



成虫



五齢幼虫

「日本産水生昆虫検索図説」  
(東海大学出版会)より

ほんとうの大きさ

# 幼虫時代



## \*ヘイケボタルの生息環境

ヘイケボタルは、本来珍しい昆虫ではありませんでした。ゲンジボタルのように溪流を好んでいるというわけではなく、かつては市川市内の田んぼで普通に見ることができました。

田んぼという環境は、

- ①産卵するためのコケの生えている土手
- ②エサになるカワニナなどの貝類が生育する水路
- ③幼虫やカワニナがすめる水質  
(田んぼの水で十分)
- ④蛹になるための、土手
- ⑤成虫がくらする湿地

といった要素を含んでいて、ヘイケボタルにはすみよい環境でした。現在の市内生息地は、いずれも水田や休耕田です。田んぼという環境はホタルなどの水生昆虫にとって大切な環境だったのです。

## \*日本の代表的なホタル

日本には約40種のホタルが知られています。ヘイケボタルのように幼虫が水中で生活するのはむしろ例外的なことで、ほとんどは陸上に住んでいます。また、光らない種類の方が多数を占めます。

### ・ゲンジボタル

幼虫は自然がよく残された流水中などに生息しカワニナを食べ、ヘイケボタルによく似た生活をしています。成虫の大きさは12~18mmでヘイケボタルより大型で強く発光します。成虫の出現時期は、

5月下旬~6月中旬です。

### ・ヒメボタル

幼虫は森や林の落ち葉の下や湿った草原で生活し、オカチョウジガイやウスカワマイマイなどの陸にすむ貝を食べています。成虫の大きさは6~9mmです。光の強さは、ヘイケボタルとゲンジボタルの間ぐらいで、短い間隔で光ります。

### ・アキマドボタル

幼虫は陸で生活し、成虫は約17mmと大型です。日本では対馬にだけ分布する、光らないホタルです。

## 参考文献

- ・アニメ NO.75：平凡社（1979）
- ・いちかわの自然調査1991 報告書：市立市川自然博物館
- ・第14回特別展「世界の甲虫・日本の甲虫」解説書：大阪市立自然史博物館（1987）
- ・日本産水生昆虫検索図説：東海大学出版会
- ・ほたと自然12か月 生息地保全の手引き：横浜市公害対策局（1988）
- ・横須賀市博物館教育資料シリーズ5 ホタル 横須賀市立博物館（1977）



△ヘイケボタル（成虫）



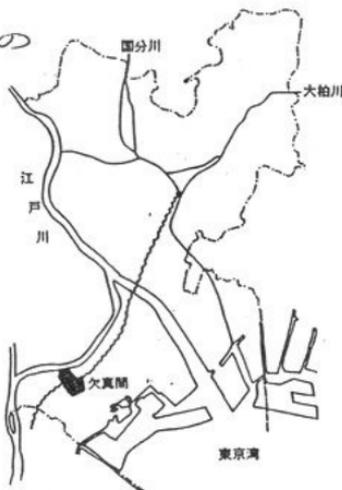
# 街かど自然探訪

おじゃまします!

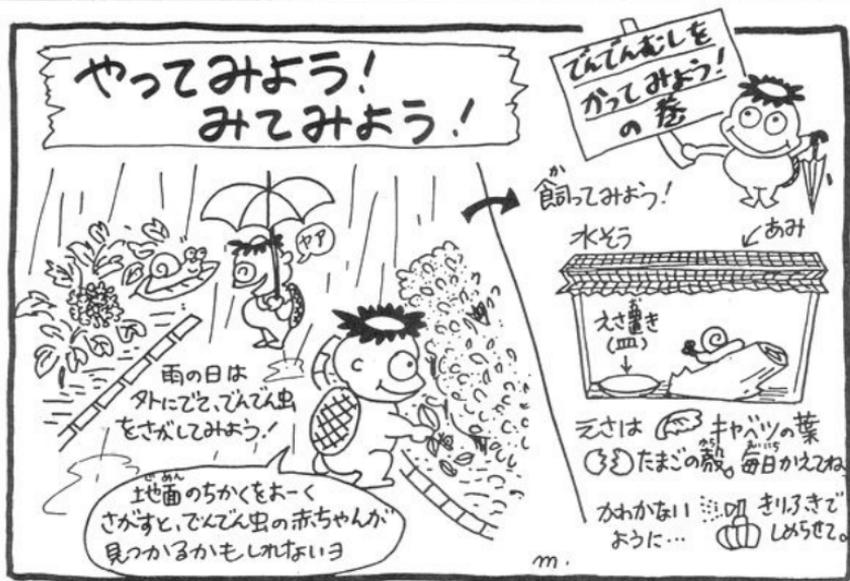
## 欠真間・匠堀が支えたもの

南行徳小学校の前に、現在では暗渠(あんきょ)になっていますが、かつての匠堀の流路が残っています。匠堀は大柏川の水を八幡から行徳を経て、浦安まで導いた灌漑用水です。匠堀のおかげでかつての行徳地区では稲作が盛んに行われました。

匠堀は、塩分を含まない水を行徳の地に供給しました。その水は稲だけではなく、多くの水生生物をも育む環境をつくりだしました。戦前までは、行徳地区でもホタルやカメ、イモリなど淡水に依存する生物がふつうに見られたことが、自然博物館の調査でわかっています。



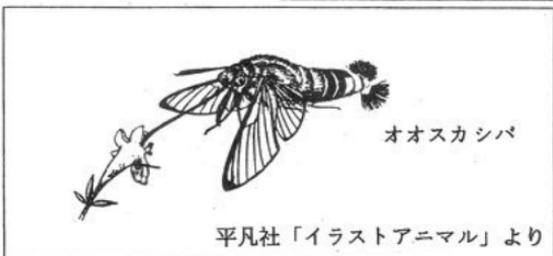
~~~~は、匠堀の流路の概略



# 市川の こん虫 昼間 飛ぶガ



「ガ」というと、「夜、電灯に飛んできて粉をまき散らし、汚い」というイメージを持っている人が多いと思います。しかし、ガの中には夜活動せずに、昼間だけ活動する種がいくつか知られています。市内で今



オオスカシバ

平凡社「イラストアニマル」より

の時期に見られる昼間飛ぶガとしては、小型で黒い翅に透明なまだら模様が入ったカノコガやそれに近いキハダカノコが、自然観察園のヨシ原を飛び回っているのが観察できます。また、市街地でも中型で黒い翅に白い一本線が入り頭が赤いホタルガや、クチナシという植物に産卵するために訪れる、翅が透明でハチのような外見をもつオオスカシバというガが観察できます。昼間活動するガは夜活動するガに比べて色彩が派手で美しい種が多くいます。

むかしの市川 ～ その16 ～

## 江戸川水泳場のこと

昭和9年頃のことです。江戸川に学童のための水泳場ができました。場所は、真間川との合流点の上手で、川岸の泥土を掘り下げ、消防ポンプの放水で泥土を洗い流したり、すべて地域の人達の奉仕で造られたようです。近くに住む私は、できあがるのが楽しみで、毎日のようにその作業の様子を見に行きました。

やがて、樽に結びつけた縄張りや、飛び込み台、よしずをめぐらした脱衣場などもできて、小学校4年生だった私は、担任の先生に引率されて、はじめて江戸川で泳ぐ機会を得たのです。水泳場には水府流水泳教師がいて、ぬき手、片ぬき手、平泳ぎ、立泳ぎなどの泳法の指導を



受けました。昇級試験があって、その先生の前で25mほど泳ぎ、5級とか4級とか認定を受けました。級が一段あがると水泳帽に白線が1本増えるのです。当時の江戸川の水は、ほんとうにきれい、川の水が口の中に入っても気にする事もなかったし、泳いでいる目の前をボラが飛びはねたりしたこともありました。

(博物館指導員 大野景徳 記)

ガマの仲間 6月上～下旬

湿地のいたるところに生えています。自然観察園にはガマが多く、コガマ・ヒメガマも生えています。



コウホネ 6月上旬～9月

自然観察園の奥のほうにまわって植えられています。スイレンの仲間です。水面から花や葉が立ち上がっています

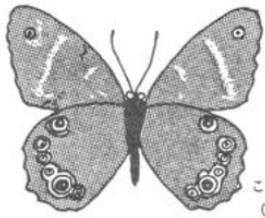


オニヤンマ 6月中旬～9月

湿地の池の上などで、縄張りの監視のために同じ所をグルグル回っています

ジャノメチョウの仲間 6月上旬

雑木林などでよく見られます。クヌギの樹に樹液を吸いに来ているのも観察できます。幼虫はタケやササの葉を食べます。



全体は茶色

この紋が蛇の目 (ジャノメ) に似ている

ヒカゲチョウ

ヤマユリ 7月中旬

雑木林で、芳香を放っているのだからすぐわかります。

# 行徳野鳥観察舎

バリケンのリバちゃん

## だより

葛南警察署から「拾得物」として届けられたバリケン（南米産のニオイガモから作出された家禽）のリバちゃん。人なつくて誰からもかわいがられている。このごろ姿を見ないと心配していたら、ポーチの物かげに置かれた大きな中華鍋に羽毛を敷きつめ、21個もの卵をこっそり抱いていた。夕方になると卵を羽毛で隠し、出てきてあちこち人をさがしては「ハイ！」と大声で餌をねだる。

大事に暖め続けていたが、無精卵の悲しさ、ひと月後、くさった卵をくわえて



絵と文・連尾純子

遠くまで捨てに行くのを見つけた。更に1週間後、留守をねらって十個程に減った卵を処分した。ショックを受けたりリバちゃんは飛び去り、まる2日間帰ってこなかった。

(行徳野鳥観察舎 0473-97-9046)

## 観察ノート

ウグイス(鳥)

1992年3月7・25日

北方町4丁目 ご自宅の庭  
「ここ数年、ウグイスが来なくなっていました。今年は庭のボードテーブル近くに來たり、囀き声を聞いたり、うれしい春です。」橋本富美子さん  
(市川市北方町在住)

チョウゲンボウ(鳥)

1992年1月29・30日、2月4・13日

3月18日 南大野1丁目

ウグイス(鳥)

1992年3月15日 市川公園

3月16日 南大野2丁目

3月31日 市民プール

ヒバリ(鳥)

1992年3月31日 市川東高校付近  
高畑道由さん(市川市南大野在住)

オオジシバリの花(植物)

1992年4月9日 江戸川

ミズキの花(植物)

1992年4月29日 真間山

ノイバラの花(植物)

1992年5月2日 江戸川

ハリエンジュの花(植物)

1992年5月3日 C&amp;M菜池公園

コムロリ(哺乳類)

1992年5月11日 江戸川

村上暢一さん(市川市真間町在住)

ノウサギ(哺乳類)

1992年4月13日 大町自然観察園

シオヤトシボ(昆虫)

1992年4月15日 大町自然観察園

阿部則雄さん(船橋市在住)

カントウタンボポの花(植物)

1992年4月12日 C&amp;M菜池公園

博物館主催自然観察会ご参加の  
みなさん

「あるわけないと思っていたので、  
びっくりしました。」

(観察会担当者)

カワセミの交尾(鳥)

1992年4月8日

大町自然観察園

横宮のり子さん

黒瀬とよ子さん

(鎌ヶ谷市在住)

オオルリ(鳥)サンコウチョウ(鳥)

1992年5月11日

大町自然観察園

「オオルリは姿も確認しました。雄でした。サンコウチョウは声だけです。」

石井 信義さん

(市川市菅野在住)

コマドリ(鳥)

1992年4月19日

国府台3丁目ご自宅の庭

「昨年の4月15日の朝、突然にぎやかにたくさんのお音を振るような音が我が家の上を通過しました。何とも言えない良い声でした。今年も4月に入り、心待ちしていたところ19日の朝、突然あの声がありました。昨年のコマドリでしょうか?感激です。」

アオバズク(鳥)

1992年5月7日

国府台3丁目ご自宅の庭

「昨年とびつたり同じ、7日の午前2時に、今年の第一声を聞くことができました。ビックリです。渡り鳥は神秘的化身ですね。」秋元 久枝さん  
(市川市国府台在住)

みなさんからの情報をお待ちしています。観察した日・場所、観察した人のお名前・ご住所をお忘れなく、自然博物館までご連絡ください。

☆☆☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆☆☆

**\*自然観察会**

「6月の自然観察会」

1. 日時 6月21日(日)  
午前9時30分～11時30分
2. 場所 大町自然観察園
3. 内容 水辺の動植物の観察
4. 申込期間 6/8～6/13
5. 定員 20名

「7月の自然観察会」

1. 日時 7月19日(日)  
午前9時30分～11時30分
2. 場所 江戸川放水路
3. 内容 干潟の生物の観察
4. 申込期間 7/6～7/11
5. 定員 20名

**\*ホタル観察会**

ヘイケホタルを観察しよう!

1. 日時 7月28日(火)・31日(金)  
8月4日(火)・7日(金)  
午後6時～8時(予定)
2. 場所 大町自然観察園
3. 申込期間 7/15～7/20
4. 定員 各回30名 申込多数の場合  
抽選(申込はがきに参加希望日を第2希望まで記入してください。)



**\*申込み方法**

各行事とも、往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記入のうえ、申込期間内に、自然博物館までお送り下さい。



次号は7月1日発行  
増刊号企画展特集

**\*標本のつくり方教室**

昆虫、植物、貝の正しい標本のつくり方をマスターしよう!

1. 日時 ①7月23日(木) 昆虫コース  
②7月24日(金) 植物コース  
③7月25日(土) 貝コース  
午前9時30分～12時
2. 場所 自然博物館
3. 申込期間 7/1～7/20
4. 定員 各コース先着15名  
(申込はがきに参加したいコース名を記入してください。全コースを受講することもできます。)
5. 対象 小学校4年生～中学校3年生

市立市川自然博物館だより  
第4巻 3号・(通巻第19号)

発行日/ 平成4年6月1日

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477